

‘キャッチ’
CATCH

VOL.89

2019.3



西東京市図書館

新しい時代!!新しいジャンル!!

～作家にチャレンジした人たちの本～

『ピンクとグレー』

加藤シゲアキ 著 角川書店

この本は、芸能界という一見華やかな世界の中にいる二人が、もがき、苦しみ、堕ちていく青春小説である。

大阪から横浜へ引っ越してきた僕・河田大貴（^{なわだ だいき}りばちゃん）は、引っ越し先のマンションの住人であった「ごっち」こと^{すず}鈴木真吾と出会い、中学高校大学を一緒に過ごしていく。しかし、徐々に様々な“距離”が生まれていってしまう。ごっちは芸能界で売れ続ける一方 りばちゃんはなかなか売れずにいた。それでもごっちの後を追いつけていくが…。

個人的には、各章のタイトルが案外キーポイントだと思っている。だが、読み進めていくと意外とそうでなかったりする。また、軽い気持ちで読み進めていき、暗い気持ちになってもらいたい。

この本の作者は、普段ジャニーズアイドルグループの一つ「NEWS」のメンバーとして活躍している。また、作品は映画化もされていて、「カメオ出演」という形で作者本人も出演している。映画と比べてみるのもひとつの楽しみ方である。

『社会人大学人見知り学部 卒業見込』

若林正恭 著 メディアファクトリー

(完全版 KADOKAWA刊)

今でこそ日常的にテレビの中で見かけるお笑いコンビ、オードリー。そのヒットは、2008年のM-1グランプリで2位を取ったことから始まった。当作品は、ツッコミ役の若林が、初めて社会人としての一步を踏み出したこの日から今までのことを自意識たっぷりに綴ったエッセイ集だ。下積み時代8年という長い長いモラトリアムを経てようやく いや急に様々な大人の人たちと触れ合うことになった彼の戸惑いや、新鮮で率直な気持ちが曲がりなりに書かれている。

世間離れした芸人の世界から、テレビの世界へとどんどん雪崩れ込んでいく中で 若林は色んなことを自意識過剰に考えすぎる。先輩にお酌をすること グルメリポートでおいしいと言いにくいこと、グランデとも言えないこと、無理に趣味を持つこと——。難しく考えすぎるあまりネガティブになっていく彼を、しかし最後に小さなオチがちょっぴり救ってくれる。一周回って可愛らしい話が多い。思春期に拗らせがちな所謂「中二病」を、実体験と共にほどいていく過程を見ているようで 読了後は自分も少し広い視野を持った気分になれる。

また、そんなごちゃごちゃするような考え事を文章に具現化する、彼の作文能力が意外と高いことも魅力だ。不思議な挿絵とセットで楽しむと、ピンクのベストの相方をどつく彼の印象が変わって来るかもしれない。

『青天の霹靂』

へきれき

劇団ひとり 著 幻冬舎

学歴もなければ金もなく 恋人もいない三十五歳の晴夫。一流マジシャンを目指したはずが、十七年間^{ぼろ}場末のマジシャンバーから抜け出せずにいる。それどころか、

「どうして俺は生まれたんだ。」

と嘆き、生きる気力すら失っていた。そんなある日警察から、音信不通だった父親が亡くなった、という電話がかかってくる。その電話がきっかけとなり、晴夫の人生が大きく動き始める…。

この本は、今でもテレビなど多方面で活躍する芸人の劇団ひとりさんの書かれた本です。びっくりしましたか？劇団ひとりさんって実は作家さんの才能も持っているんです！！

私はこの本を読み終わったあと、なかなか興奮が冷めませんでした。劇団ひとりさんの「生きる」ことに対する考え方が、とても新鮮だったからです。

みなさんも「なぜ自分は生まれたんだろう。」と思ったことはありませんか。もしかしたら今この時も、そう思っている人がいるかもしれません。晴夫も最初はそう思っていました。しかし物語の終盤、彼はやっとその答えを見つけます。それはあまりにも短く簡潔ですが、それでいて 私の胸にはとても心地よく響きました。この劇団ひとりさんの「生きる」ということについての新鮮な考え方が『青天の霹靂』の魅力の一つ目です。

そしてもう一つ、この本の魅力を紹介させて下さい。それは結末がとても私たちには考えつかないような終わり方だと

ということです。最後の最後まで、（このままの流れで終わるんだな。）と思わせておいてからの、まさに「どんでん返し」！！！まさかの展開に思わず口が開いたままになります。（笑）どんなどんでん返しが待ち受けているのかは読んでからのお楽しみ◎

今年は 2019 年。新しい元号にもなります。この機会に新しい気持ちで『晴天の霹靂』を読んでみてはいかがでしょうか。きっとあなたも自分の「生きる意味」が見えてくると思います。

『トリガー』

板倉俊之 著 リトルモア

『トリガー』それは国王が国の犯罪件数を減らすために各 47 都道府県に配置した、拳銃を持つことを 1 年間許された者たち。この者たちは、国王と思考が似ていることで選ばれた。老若男女、年齢問わずこの条件をクリアすれば『トリガー』になれる。肌身離さず拳銃を持ち、自分の正体はバレてはいけない。もし、暴こうとする者がいればその者は極刑に処罰される。そんな誰もが緊張しているこの世界で『トリガー』たちは、それぞれどのようにして過ごしていくのだろうか……。

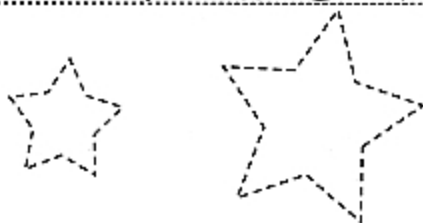
この本は各人物についての短編で構成されています。だから、この本は一見堅苦しいような内容ですが、あまり本を読まない人も読みやすい作品だと思います。私がこの本の中で好きな話は元ヤンキーの藤井良太の話です。この人物はトリガーではなくただの一般人なのですが、父がトリガーに殺されてしまった

ことをきっかけに、本来は法律違反であるトリガー探しに手を出してしまいます。主人公の強い意志と、それを見守る彼女の様子が読んでいてドキドキハラハラです。

この本の作者である板倉さんは、普段「インパルス」というコンビを組んで活動しているお笑い芸人さんなのですが、書き方も話もとても面白くて驚きました。また、この本は板倉さんの特徴である面白さと、ブラックな部分が上手く表現されている作品だと思います。また、最後には自分が思ってもみない展開になったので ぜひネタバレなしに読んでほしいです。

みなさんもぜひ、

新しいことにチャレンジしてみてください！！



「ビジュアル地球探検図鑑

ーおどろくべき大地の姿とメカニズムー

ジョン・ウッドワード／文 田近英一／日本語版監修 竹田純子／訳
ポプラ社

地球は太陽のまわりを回る8つの惑星のひとつです。宇宙にはたくさんの惑星がありますが、生命が誕生して生きていくのに必要な条件を満たしている惑星は、この地球のみです。

地球とは、どのくらい前に誕生したのでしょうか。約46億年前に太陽が生まれたとき、そのまわりを取りまいていたちりを含むガスの集まりから、地球や太陽系のほかの惑星が誕生しました。地球には美しい自然がたくさんあります。それは、山脈や塩原、砂漠、氷山…。この本にはそんな絶景の鮮やかな写真が掲載されており、実際に世界旅行をした気分になります。

ぜひ、この本を読んで、世界一周しませんか。

編集後記

最近 また仕事が増えすぎて
きて本を読むひまをつくれない…

(ゲームをするひまはあるのに…)

気に入った新刊を買うお金が
ないのもつらい…(泣)

「嵐」が2020年末に活動休止
する という 情報 にもつらいー

そんなこんなで 毎日 を 過ごして

いるけど 何か新しい "刺激" を
求めてます(´ω`) ♪

mi

もう共同編集をお手伝いするようになって
から4年…。でも最後にこんな大きな余白を
貰うことになるのは初めてだよ。

最近 は 特に 電子書籍の発達なんかで紙
媒体の弊いは衰える一方だけど、こうしてこの
作業をしていて、図書館は相変わらずいつまでも
にぎやかなままだなあ、と実感する日々を
過ごさせてもらいました。

おかげで今バレンタインデーが近いけど、
チョコレートのレシピ本が全て貸出中だよ！
うう(´ω´)

私は今回で引退ですが、これからも無理に
に図書館を利用します。そして、新しいCATCH
編集者が入ってくれますようにと影から祈ります。
次は是非！君が！！ 竜胆